

事業内容及び実施計画

【試合スタッツ全網羅プロジェクト】

1. コンセプト

JHA会員サイトを単なる情報基盤で終わらせず、個々人の生涯のプレーログが蓄積される場にする。「データを見続けたいから競技登録を残す」という動機付けを行う。

まずは2021年3月に予定通り、潜在的な競技者を顕在化させるため、試合に出るための競技登録システムから、ハンドボールに関わる全ての人を対象とした会員システムに移行。

今後は、今まで紙ベースで保管していた試合記録をデータベース化し、大会写真や映像等とともに競技者個人と紐付けができるよう進めていく。

2. 具体案

JHA会員サイトに以下の機能を追加開発。

全年代の試合スタッツを蓄積/コンテンツ活用する。

- ・既存の試合スタッツ Excel からデータを抽出/集計/表示
- ・生涯得点や地域別ギネスランキングの作成/表示

3. 想定効果

4年後の高校卒業後の登録離脱率 30%改善する。

【Over18 プロジェクト】

1. コンセプト

高校卒業後もカジュアルにハンドボールを続けられる機会・気運づくり。ハンドボールに「本気～ゆるく」まで幅広く関われる機会をつくることでハンドボール人口の向上に繋げていく。

これまでハンドボールに関わる人たちの実態を把握する調査は行なっていなかったことから、まずは実態調査を目的としたアンケートを実施（回答数 2,603 人）。

高校卒業以降でハンドボールをする機会が減っていること、大会としてはどんな大会でも参加したいと意欲が高い回答結果が多いことから、高校卒業以降に競技者が楽しめるような大会を日本ハンドボール協会主催として2022年度の計画に乗せるように進めていく。

2. 具体案

社会人大会に大学生も登録可能とすることで、競技機会を創出する。

- ・年1~2回の定期的な社会人大会の開催
- ・年1回のハンドボールフェスの開催

3. 想定効果

2021年度は全国レベルでの取り組みに向けたコンセンサスの醸成と大会コンセプトの決定を行う。

令和4年度に Over18 の競技人口が 10%増えることを目指す。

【指導者・審判・競技役員サポートプロジェクト】

1. コンセプト

最前線で競技に携わっている三者に対して、適切な研修機会や業務支援を提供する。

2. 具体案

eラーニングシステムを準備し、既存の研修用アセットとともに JHA 会員サイト上に連携する。（2021年8月に連携予定）

- ・コンプライアンス研修
- ・技術指導、トレーニング方法

並行して、以下も実施する。

- ・指導者資格の再整理
- ・大会運営業務の電子化&効率化

3. 想定効果

4年後の高校卒業後の登録離脱率 30%改善する。

【動画再活用プロジェクト】

1. コンセプト

リーグの試合動画を再編集してPV化、横断的な露出による観戦きっかけづくり。映像のチカラを活かして、ハンドボールを知る・興味関心が高まるきっかけをつくることで、ハンドボール人口向上を目指す。

2. 具体案

JHL TV の改善

ダイジェスト番組製作

プロモーション映像制作（ハイライト/試合告知）

3. 想定効果

再生回数平均 10,000 回

【攻めの広報プロジェクト】

1. コンセプト

ハンドボール自体のポジショニングを再定義に向けて、実態調査アンケートを実施（回答数 2,603 人）。

回答結果から下記のようなポジショニングの再定義を検討。

- ・他競技から転向しても活躍できる
- ・身体能力の高さ、プレーの激しさ

実際に、1月に行われた世界選手権で主力として活躍した吉田守一選手は中学までバスケットボールをしており高校からハンドボールを始めている。今大会は怪我で出場できなかったものの日本代表として活躍する部井久アダム勇樹選手もソフトボールからの転向である。

上記の再定義の内容からも他競技から転向してきた選手を中心として戦略的に特定選手(シンボルアスリート)の露出を強化。「ハンドボールをやってみたい」「やっていてよかった」の感情を醸成する。

2. 具体案

戦略的なシンボルアスリートの輩出と露出機会づくり。

- ・web メディアの活用
- ・動画制作
- ・代表コンテンツページ改修および新規ページ制作（web サイト内）

3. 想定効果

4年後に「好きなスポーツ選手ランキング TOP10」にハンドボール選手をランクインさせる。